

## 検査結果のみかた

<b>BMI</b>	BMI=	$\frac{\text{体重 (kg)}}{\text{身長 (m)} \times \text{身長 (m)}}$
		<b>基準値</b>
男・女		18.5~24.9

## 腹囲

	<b>基準値</b>
男	85cm
女	90cm

## 血圧

	<b>基準値</b>
収縮期血圧	140未満
拡張期血圧	90未満

心臓から押し出された血液が血管壁に作用する圧力のことを血圧といいます。収縮期(最高)血圧と拡張期(最低)血圧とがあり、その差は大体40mmHgです。血圧はたえず変動しているのが本当に血圧が高いかどうかは何回か測定してみなければわかりません。しかし、何回測ってみても、最高が140mmHg又は最低が90mmHg以上の場合は高血圧だろうということになります。定期的な診察や検査が必要です。

検尿・便			
検査名	正常値	コメント	
尿検査	尿蛋白	(-)	主に腎臓の病気の発見に役立ちます。激しい運動後や過労時に一時的に増加することがあります。
	尿糖	(-)	尿糖が陽性に出ると糖尿病が疑われますが、それ以外の病気でも陽性になることもあります。
	ウロビリノーゲン	(正)	主に肝臓の病気を発見するのに役立ちます。正常でも陽性になること(過労・腸の状態の影響など)があります。
	尿潜血	(-)	腎臓や尿管、膀胱など尿路系に炎症や結石などの異常のあるとき尿の中に赤血球が混じって潜血反応が出ます。(生理中は極めて高い確率で陽性になります。)
便潜血(大腸ガン)	(-)	便潜血(+)は尿と同じように、目に見えない程度の血液が便に出ているということです。大腸の病気(潰瘍や癌、ポリープなど)痔などでこの検査が陽性になります。	

## 胸部レントゲン

肺結核、肺ガン、心拡大など多くのことをチェックします。タバコを吸う人は、吸わない人に比べて肺がんでの死亡率が約10倍となる危険性があると警告されています

## 喀痰検査

3日間連続して早朝痰をとり肺ガンチェックをします。

## 心電図

心臓の動き及び心筋の状態を調べます。心肥大の有無、不整脈の種類の判定、心筋梗塞などの虚血性心疾患の有無を調べます。

### 血液検査

検査名	基準値	コメント	
貧血	白血球数	3500~9700/ul	炎症性の病気や過度のストレス、血液疾患などで増減します。
	赤血球数	男438~577 × 10 <sup>4</sup> 女376~516 × 10 <sup>4</sup>	貧血の有無がわかります。赤血球は肺からとりいれられた空気の酸素を体内に運ぶ役割をしています。ですからこれらが減ると、酸素不足の状態を作りだし、疲れ感や頭が重い、心臓がドキドキするなどの原因になります。これら三つの組み合わせからの性質を分類、治療に役立てます。ヘマトクリット基準値以上は多血症とよばれ血管がつまりやすくなります。
	ヘモグロビン	男13.6~18.3 g/dl 女11.2~15.2 g/dl	
	ヘマトクリット	男40.4~51.9 % 女34.3~45.2 %	
	血小板	14.0~37.9 × 10 <sup>4</sup>	出血したとき止血機能の役割をはたします。
白血球像	Baso	0~2%	各白血球の割合を調べます。感染症、白血病、再生不良貧血などが原因で増減します。
	Eosino	0~7%	
	Neutro	42~74%	
	Lympho	18~50%	
	Mono	1~8%	
脂質検査	総コレステロール	150~219mg/dl	体内にある脂肪の一種です。多すぎると動脈硬化症など成人病の原因となります。高かった場合は更に善玉コレステロール(HDL)、悪玉コレステロール(LDL)などを調べて診断することが必要です。
	HDLコレステロール	男 40~80mg/dl 女 40~90mg/dl	善玉コレステロールと呼ばれています。血管壁に付着した余分な脂肪分を取り除く働きをするからです。
	LDLコレステロール	70~139mg/dl	悪玉コレステロールとよばれています。数字が高いほど危険性が高まります。
	中性脂肪(トリグリセライド)	空腹時 50~149mg/dl 随時 30~174mg/dl	体内にある脂肪の一種です。使われなかったエネルギーは皮下脂肪として蓄えられますが、その大部分は中性脂肪です。この値が高くなりすぎると動脈硬化や糖尿病を進行させます。
糖尿	血糖	空腹時 70~109mg/dl	ブドウ糖の調節をしているインシュリンの機能が低下し血糖値が上昇します。食後でも200mg/dl以上なら可能性が高いです。精密検査を受けましょう。
	HbA1c(NGSP)	4.6~6.2%	血液中のブドウ糖が赤血球内のヘモグロビンと結合したものを調べる検査で過去1~2ヶ月の血糖の平均値を推測するものです。%で表現されます。
肝機能	総蛋白	6.5~8.2 g/dl	血液中のたんぱく質を調べたもので、栄養状態や、腎臓や肝臓の機能を調べることできます。
	アルブミン	3.8~5.2 g/l	肝細胞だけで産出されるタンパク質で、肝疾患、栄養障害などで低下します。
	総ビリルビン	0.3~1.2 mg/dl	赤血球中のヘモグロビンが肝臓で処理されてできる黄色い色素で胆汁に多く含まれます。肝臓や胆嚢に障害があると高くなりますが特に病気でなくても体質的にビリルビンが高い人もいます。
	直接ビリルビン	0~0.4 mg/dl	ヘモグロビンが肝臓で処理れて出来たものを間接ビリルビンといい、それが肝臓で水溶性に変化したものを直接ビリルビンといいます。これらのビリルビンの量の違いから黄疸の原因を調べることが出来ます。
	GOT	10~40 U/ℓ	主として肝臓の細胞の中にあるアミノ酸をつくる酵素です。肝臓の細胞の変性や壊死に反応するので肝臓、胆道系の診断には欠かせない検査です。
	GPT	5~45 U/ℓ	
	γ-GTP	男 79U/ℓ以下 女 48U/ℓ以下	多くの内臓に含まれる蛋白分解酵素です。アルコールや薬剤などが肝細胞を破壊したときに他の酵素より早く異常値をだします。脂肪肝でも高くなります。
	ALP(IFCC)	38~113 U/ℓ	体のほとんど全ての臓器や組織に含まれているリン酸化合物を分解する酵素です。腎臓、小腸、肝臓、骨などの臓器異常があるときに高値になります。
	LD(IFCC)	120~245 U/l	酵素の一つで、あらゆる細胞の中に含まれています。特に心筋、肝臓、骨格筋に多く含まれています。運動や軽作業によっても上昇します。これだけでは病気の特定はできないので他の検査も併せて総合的に検査します。
	LAP	30~78 U/l	酵素の一つで、肝臓や膵臓、胆道などに多く含まれています。他の検査と併せて肝臓や胆道の検査として用いられます。
コリンエステラーゼ	男 245~495U/l 女 198~452U/l	肝臓で作られる酵素のひとつです。他の検査より早く異常があらわれるので肝臓の障害をいち早くキャッチする検査として用いられています。特に現代人に多い脂肪肝の時に高くなります。	

\*ALPIは2021年4月より検査方法の変更に伴い、基準値が変わりました。

検査名	基準値	コメント	
痛風	尿酸 <p>男 3.6~7.0mg/dl 女 2.7~7.0mg/dl</p>	体内の新陳代謝の結果、その老廃物として作られたものです。肉類などを片寄って食べたり、糖分やアルコールの取り過ぎや激しい運動を続けたとき、ストレスが一定程度以上になったときなど新陳代謝によって尿酸が多く作りだされます。この尿酸がうまく尿に流れてゆかなくなって関節にたまって、激しく痛む病気が痛風です。	
腎機能	BUN(尿素窒素) <p>8~20mg/dl</p> <p>クレアチニン <p>男0.65~1.09mg/dl 女0.46~0.82mg/dl</p></p>	体内でエネルギーとして使われた蛋白の老廃物です。血液のBUN,クレアチニンの測定は腎臓の機能が正常であるかどうかを見るのに重要です。	
膵	血清アミラーゼ <p>39~134U/ℓ</p>	急性膵炎などの膵臓の病気や、腎不全、肝炎などがわかります。	
貧血	血清鉄	男:60~210 女:50~170	血液中の鉄の量を測定する検査です。
	鉄結合能	男:250~410 女:250~460	鉄代謝に以上をきたす疾患や病体の変化を反映します。
炎症反応	CRP	0.30以下 mg/dl	炎症や組織破壊で増えるタンパク質の一種です。
	ASO	240以下 IU/ml	血液中のASOが高いということは溶血性連鎖球菌に感染している可能性が高いことを表しています。
	RF	15以下 U/ml	通常の血液中には存在しないリウマチ因子の有無を調べる検査です。
肝炎	HBs抗原	(-)	これが(+)のときはB型肝炎ウイルスがあるということです。しかしウイルスの反応があるからといって肝炎が発病しているとは限りません。むしろ発病していない場合が多いので(+)の方は、医師に相談して下さい。
	HBs抗体	(-)	これが(+)のときは過去にB型肝炎ウイルスに感染し、現在は完治していることを表します。
	HCV抗体	(-)	C型肝炎ウイルスの感染の有無を調べる検査です。現在体内にウイルスがない場合でも陽性になることもあります。
その他	CPK	男50~230U/l 女50~210U/l	主に心筋障害の指標として重要な検査であり、緊急検査項目に含まれています。
電解質	ナトリウム	135~145 mEq/l	水分調整や浸透圧に関わり、バランスが大きく崩れると意識障害を引き起こすことがあります。脱水などで高い値となります。
	カリウム	3.5~5.0 mEq/l	酸塩基平衡や浸透圧の維持、筋肉や神経系に深く関わる主要電解質です。
	クロール	98~108 mEq/l	血液の浸透圧や酸塩基の維持に関わっています。
	カルシウム	8.6~10.2 mg/dl	少しの変動でも症状が出現し、内分泌疾患・腎疾患・骨代謝障害などが疑われます。
オプション検査	リン	2.5~4.5 mg/dl	生体内での糖代謝、エネルギー代謝に必須です。異常高値は甲状腺機能低下症、腎不全などが見られ、異常低値はビタミン欠乏などが疑われます。
	CEA	5以下 ng/ml	主に、大腸ガン・肺ガン、重喫煙者では非ガンでも反応
	PSA	4以下 ng/ml	主に前立腺ガン、前立腺肥大などでも反応
	AFP	10以下 ng/ml	主に肝臓ガン、肝硬変、慢性肝炎でも反応
	CA125	35以下 ng/ml	主に卵巣ガン、子宮内膜症でも反応
	CA19-9	37以下 ng/ml	主に膵臓ガン、膵炎、胆のう炎などでも反応
ピロリ菌	(-)	胃や十二指腸に住みついている菌で、胃潰瘍や十二指腸潰瘍胃ガンと関係がある菌です。	

## 骨密度

成人若年者の平均値の	
80%以上	正常
70~80%	骨密度減少傾向
70%未満	骨密度著しく減少

## 血圧脈波

動脈の詰まり、硬さを測定し、動脈硬化の度合い、狭窄、閉塞の有無と血管年齢を測定します。

## 腹部エコー

超音波検査で、肝臓、腎臓、膵臓、胆嚢等の異常を見つけます。

## 眼底検査

瞳孔から眼球の奥を覗いて網膜を観察するのが眼底検査です。眼底の血管は、身体の外から見ることで出来る唯一の血管で、この検査で網膜の病気のほか、高血圧、糖尿病、動脈硬化など、多くの病気に関する情報を得る事ができます。

## 肺機能検査

静かにしている状態での肺内のガス容量を肺活量といい、これを実測したものが努力性肺活量です。さらに、実測時に吐き出した最初の1秒管の呼気量は1秒量と呼ばれ、その量動脈硬化など、多くの病気に関する情報を得る事ができます。が努力性肺活量の何%に当たるかを示したものが1秒率です。